

連合茨城の県中央メーデーには、民進党の参院議員や希望の党の衆院議員が集まった＝水戸市三の丸1丁目



「新党後」へ思惑交錯

県選出の3氏、国民民主入りへ

民進、希望の両党は新党「国民民主党」を5月に旗揚げし、合流する。民進で当選した県選出の参院議員は2人、希望は衆院議員が2人。うち郡司彰・参院副議長を除く3人は新党入りが確実で、国会議員と地方議員が別の党に分かれて連携する「いびつな形」は解消される。

郡司氏、更なる再編に望み

民進、希望両党の支持団体、連合茨城が28日、水戸市で開催した県中央メーデー。来夏改選となる民進の参院議員藤田幸久氏と、党籍を保ちながら民進会派を離脱中の郡司氏、昨年希望に移った浅野哲(比例北関東)と青山大人(同)の両衆院議員が顔をそろえた。連合茨城の内山裕会長は「昨年の総選挙でバラバラになった政党の勢力が、どれだけ結集できるのか、動向を注視しながら、支持協力関係を一層強固なものにしたい」と話した。これに対し、郡司氏は民進県連顧問の立場でありさつ。「残念ながら一気にすべての党が一緒になって自民に対抗するところまではいかなかった。しかし、目指す頂上は同じ。早いうちに多くの塊となって歩んでいく」と述べ、立憲民主党

を巻き込んだ再合流を諦めない考えを示した。

藤田氏と浅野氏は取材に対し、新党への合流を明言。青山氏も、民進県連の長谷川修平代表に対し、新党入りの考えを伝えたという。一方、郡司氏は「私は(会派が)無所属。これからもだ」と話し、副議長の立場を踏まえて明言を避けた。メーデーでは、国民民主党の党名について「何を指すのか分かりにくい」と話す参加者もいた。

立憲の影 連合警戒

希望の浅野、青山の両氏は、新党協議の中で、他の1年生議員とともに「新党ゼロ」という党名を提案。採用には至らなかったが、浅野氏は「旧民主党が政権与党だった時代の体質に戻るのではダメ。党を真の意味でゼロから始動させるべきだと考えた」と話す。連合は、衆院選で3党に分かれた立憲民主、希望、民進の結集を望むが、国会議員の間で、分裂時のしこりが残る。

県内の地方議会では、県議5人、市町村議27人が民進に所属し、党分裂後も離党の動きはない。議員らは今年2月、「茨城のことは茨城で考える」として、国会議員を含まない政治団体「茨城県民フォーラム」を設立。県議会の会派名もそれに合わせた。今後は医療や雇用面で地域の課題解決を目指し、茨城版マニフェストを定める。

ある地方議員は「県議選が12月に迫る中、党の勢力図や党名がまた変わると、どの立候補予定者も活動に差し障る。所属を『県民フォーラム』に決めて準備しておけば、こうしたトラブルを防げる」と話す。一方、連合傘下には、日教組や私鉄総連など、来年夏の参院選比例区で、立憲民主党から組織内候補を立てる産別労組があり、同党を支持する組合員が一定数存在する。

をすみ分け、県議選に候補を立ててくると、連合が応援してきた現職にとつて脅威になる。その時は「東海第二原発の再稼働反対」を訴えてくるはずだ」と話す。

立憲民主党によると、県内には現在、党の県連組織が存在せず、党所属の地方議員もゼロ。ただ、複数の議員から入党に関する問い合わせがあるという。(佐藤仁彦)

ある労組役員は「立憲民主党が、共産党と選挙区